

⑨Int.Cl.
B 60 r 21 / 12

⑩日本分類
80 K 0

⑪日本国特許庁

⑫実用新案出願公告
昭49-15082

実用新案公報

⑬公告 昭和49年(1974)4月15日

(全2頁)

1

⑭ガス発生剤収納ケース

⑮実 願 昭45-125160
⑯出 願 昭45(1970)12月14日
⑰考 案 者 岡 昂
東京都杉並区西荻南1の4の13
同 有馬龍弘
横浜市神奈川区西寺尾町714日
産自動車西寺尾寮
⑱出 願 人 日産自動車株式会社
横浜市神奈川区宝町2
⑲代 理 人 弁理士 清瀬三郎 外1名

図面の簡単な説明

第1図は本考案の実施例を示す側面図、第2図は第1図におけるガス発生剤収納部の1例を示す一部平面図である。

考案の詳細な説明

本考案は自動車の衝突時人命保護のために用いられるエアバッグ内に装備するガス発生剤の装備様式構成に関するものである。

この種ガス発生剤としてガス発生量、発生速度の異なる数種のことを併用してガス発生状況を適切とする事は行なわれているが、これ等を混合することができず各別区分装備される事が必要であり、従来は各別ケース等に入れて基盤に取付けていたが、装備操作が厄介であると共に誤装備の可能性もあり、本考案はこれを1枚のプラスチック

2

フィルムを用いて区分密封装備し簡便に機能よく実施させんとするものである。

図実施例につき説明すると、1は基盤、2はエアバッグ、3はプラスチックフィルム又はそれに類する薄い板又は膜、4は樹脂製又はそれに準ずる薄い基盤、5、5'、5''は異種ガス発生剤、6は接着又は高周波溶着部、7はスクイブ装備部を示し、薄い基盤4上にプラスチックフィルム3を図の如く異種ガス発生剤を区分配分して接着する事により容易に異種組合せガス発生剤のセットケースが出来、これを基盤1に装備する事により容易にエアバッグ装備が得られる。高周波接着の場合も火薬の引火点以下で簡単に実施されうるから危険性は殆んどない。エアバッグは薄い基盤4に直接取付けてもよい。

尚基板にスクイブ着火用としてプリント配線を施しておけば一層便利である。

本考案によれば異種ガス発生剤は外部からもまた相互間に於いても完全に区分密封されているため耐久性の向上が得られ、又作業性の向上が計られる効果あるものである。

⑳実用新案登録請求の範囲

スクイブの装着可能な樹脂製又はそれに準ずる薄い基盤上にプラスチックフィルム又はそれに類する薄い膜あるいは板を区画室を構成する様に接着又は溶着して該区画室内に異種ガス発生剤を収め装備させてなるガス発生剤収納ケース。

(2)

実公 昭49-15082

図 1

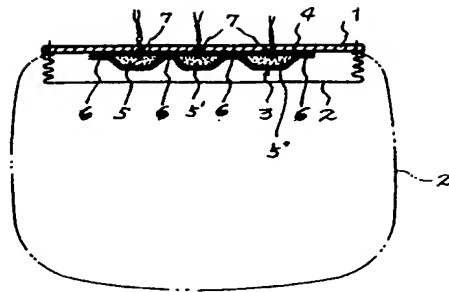


図 2

